



さまざまな国の食文化とアイデンティティ。食を通じて文明や文化がどのように発展し、これから何処へ向かうのか。この興味深いテーマをご自身の生い立ちや体験から研究し、「英語による国際理解講座」で話して下さったジェイソンさんにインタビューしました。

1 ご出身はどちらですか。

イギリス・ロンドンの南部、ブリクストン(Brixton)です。日本の渋谷に似た、コンクリートジャングルの街です。デヴィッド・ボウイもこの街の生まれです。

2 英文学を専攻されたそうですが、好きな日本の文学はありますか。

源氏物語など平安時代の文学が好きです。日本の文化の一つに「ちよんまげ」がありますが、私もちよんまげを結ったことがあります。

3 来日のきっかけは何ですか。(地球儀を回して決めたと伺いましたが…!)

二十歳の時、「これからどう生きるか」をとて深く考えました。そして、①言葉のわからないところで自分を試す、②ロンドンから遠いところへ行く、そして③独特の文化をもつ日本で生活してみよう、と考えて今年で来日9年になります。当初は、日本の独特の文化である「寿司」を、日本人は毎日食べていると思っていました!

また、コンビニがとて多くてビックリしました。イギリスには「キオスク」という売店がありますが、新聞のみ扱うような小さな店です。日本のコンビニでは「シャープペンシルの芯」も売っていたので、とて驚きました。

4 国際交流センターの講座で「食」について講義されましたね。

日本の独特な文化である「もったいない」や「腹八分目」というものは、中国やインドなど海外にも似た文化として存在します。「腹八分目」ならぬ「腹七分目」という考えや、「食べること」そのものが宗教性を帯び、「バランスよく食することがほどよく食欲を充たす」という考えもあります。

日本では、沖縄の食文化に注目しています。私はガーデニングが好きで、そこで好物のゴーヤを栽培しています。沖縄には、海ブドウをはじめとした「健康的な食」、ちゃんぷる一文化を反映した「多様性に富んだ食」があります。特に野菜や果物の割合が高いのがいいですね。

今、日本全体の食文化の課題として野菜、特に果物の摂取が少ないことが上げられます。値段が高いのが残念ですが、クオリティーはとて高いので、果物を食べることがもっと身近になることを願っています。

5 「イギリス人は食べ物に塩を添えるのが好き」とのことですが。

そうです。私は日本の「お漬物」が大好きです。しかし、食べ過ぎは問題ですね(苦笑)。イギリスでは塩分の摂取を減らすため、例えば、減塩したパンを作っています。ただし、減塩したパンにマーマレードやピーナツクリームなど、何かしらを塗ります。こうした点も見直すべき課題の一つですね。

6 神話や民話の背景を考察することが趣味だと伺いました。

過去の人間にあった喜怒哀楽やものの考え方と、今日の人間に

あるそれらとを考え合わせる、具体的には「変わるもの、変わらないもの」「変えるべきもの、変えるべきでないもの」を考えます。つまり、「不易と流行」を見きわめることが大切だと考えています。

過去の人間も今日の人間も同じ「人間」であり、双方に共通することは多々あります。そして、過去を教訓として今日を生きるヒントが得られます。

「温故知新」ですね。家や車が欲しいという「欲」を追い求める生き方は昔も今も同じですが、欲をすべて満たそうとするのではなく、本当に必要なかどうかをよく考える。

考えることで自己をコントロールし、賢い着地点を見出していかなければなりません。

同時に、「現在」を生きる人間同士に共通する喜怒哀楽やものの考え方などもよく考察しますね。共通することは共有できる可能性が高く、人と人とを結びつける力があります。こうした作業を積み重ねることで、弱まっているコミュニティの力を再生できるヒントが得られると思いますし、次の世代に引き継ぐべき「持続可能な社会(sustainable society)」の形成に貢献できると私は信じています。

7 川崎の好きなところはありますか。

川崎大師! パワースポットが好きです。日本民家園もいいですね。友人が来日したら連れていきたいです。

そして、私の好きな日本食も紹介したいです。まず、鰻。ピクルス系として野沢菜。茶わん蒸しのぎんなん、三つ葉、しいたけもおいしいですね。きんぴら(牛蒡)は最高です! あと、お味噌汁ではなく、お吸い物もいいですね。イギリスではお味噌汁が人気ですが、私はお吸い物を薦めます。最後にあんきもと湯豆腐、エイヒレ。もちろん、お供に熱燗。柚子酒、杏子酒のリキュール酒も。シメはあんこがのったかき氷で決まり!

みなさんがイギリスへ行った際には、是非パイ(Pie)を食べてみてください。ミートパイ以外にも鰻パイ(お菓子じゃないですよ(笑))、コテージ(Cottage、牛ひき肉)パイ、デザート系ではアップルパイ、ブルーベリーパイなど、たくさんのおいしいパイがありますから!

お伺いしたことがあり余るほど、話題の一つ一つに会話の花が咲くインタビューとなりました。最後に、イギリスは伝統を大切にするとともに、新しい文化の芽も大切に「ハイブリット文化の国である」と語って下さいました。今回のインタビューが、ロンドンと川崎、イギリスと日本の「新たな架け橋の芽」となり、その芽からいつの日か大輪の花が咲くことを願ってインタビューを終えました。



正一編集ボランティアの取材を受けるジェイソンさん

(取材・文:編集ボランティア 正一 努/写真:編集ボランティア 安田芳郎)